

442年ぶりダブルの隠れんぼ

徐々に欠ける月。右端の写真の矢印は皆既食となった月の後ろに入り込む天王星＝（左から）8日午後6時15分、同6時44分、同8時23分、大分市府内町、撮影・江藤成吾



皆既月食×天王星食 県内でも観測

皆既月食が8日夜、大分県内で観測された。月が地球の影にすっぽり入り、特有の赤銅色に染まった。天王星が月に隠れる「天王星食」も同時に起こり、442年ぶりとなる天体ショーを多くの人が楽しんだ。

大分市府内町のコンパルホールには親子ら150人以上が集まり、屋上で双眼鏡や天体観測ドームの望遠鏡を使って夜空を観察した。午後6時すぎから満月が欠け始めた。約1時間後には皆既食となり、太陽からわずかに届く光に照

らされ、赤黒く変化した。同8時半前から約50分間は天王星が月の後ろに入り込んだ。

同市豊府小2年の市原雄太君（8）は「なぜ月が欠けるのか不思議」と興味深そうに空を見上げた。

国立天文台によると、皆既月食中に惑星食が起きたのは1580年の土星食以来という。（指原祐輔）

大分合同新聞 2022年11月9日（水）朝刊 1面

